

自転車ネットワーク策定の技術手法



道路研究部 道路研究室 主任研究官 **大脇 鉄也** 研究官 **小林 正憲** 室長 **上坂 克巳**

(キーワード) 自転車ネットワーク、整備計画

1. はじめに

歩行者は歩道を、自転車は自転車道又は車道を、安全に安心して通行できる交通環境が整った道路を効率的かつ戦略的にネットワーク化し、自転車の交通秩序を回復することが求められている。

道路研究室では、自治体等が道路管理者等と連携し、自転車走行空間のネットワーク(以下「自転車ネットワーク」という。)整備計画を策定する際の技術的手法をとりまとめた手引き(案)を作成している。

2. 自転車ネットワーク整備計画策定手順

自転車ネットワークの整備は、現道路幅員の再構築を念頭にしており、様々な制約が多いことから、長期にわたるものであると考えられる。よって手引き(案)では、戦略的にネットワーク化を図るため、自転車ネットワーク全体の将来像を示す「基本計画」

と将来像に向かったの当面の事業展開を示す「事業計画」の2段階の計画立案方法を示している。また、計画の策定の一連の流れは、①自転車利用の概況把握と方針策定、②計画エリアの設定、③ネットワーク候補路線の抽出、④ネットワークの現状評価、⑤基本計画の策定、⑥事業計画の策定、⑦計画のフォローアップとし、各項目の検討方法について事例等を用いて解説している。

3. おわりに

本手法における自転車ネットワークの考え方はあくまでも一般的なものであり、整備計画策定は地域の実情を考慮すべきである。また、現在、手引き(案)参考に計画策定に取り組んでいる方々のご意見等を頂きながら、随時改訂を行う予定である。

道路橋補修・補強事例集(2009年版)の発刊



道路研究部 道路構造物管理研究室 室長 **玉越 隆史** 主任研究官 **星野 誠**

(キーワード) 道路橋、損傷、補修・補強、疲労き裂

わが国の道路橋では、高齢化の進展に伴い様々な劣化・損傷が発生しており、補修・補強の必要性が増加している。一方、既設橋の補修・補強にあたっては劣化・損傷の原因推定から対策方針の決定まで極めて多岐にわたる要因が複雑に影響することから普遍的な対策手法は確立していないため、個別に詳細な検討が必要である。

劣化・損傷に対する分析検討や評価手法などの研究で得られた留意点を踏まえ、補修・補強対策の技術指導を行っている。その成果を活用するため、過去に国土技術政策総合研究所で技術指導を行った道路橋の劣化・損傷事例に関する情報収集及び分析を行った。それらを踏まえて原因の推定と必要な詳細調査の方法、補修・補強工法の選定、施工時の品質

確保策などについての知見を整理するとともに代表的な損傷事例について対策のレビューを行った。

例えば、鋼製橋脚の隅角部や鋼床版における疲労き裂については、全国地方整備局での調査・点検結果の分析、既往の設計・施工事例の分析、橋梁製作技術の調査なども踏まえて対策における留意点を把握した。

これらの調査研究成果を、他の道路会社・自治体における補修・補強事例とあわせてレビューを行い(社)日本道路協会より発刊された道路管理者及び現場の補修・補強技術者向けの技術資料である「道路橋補修・補強事例集(2009年版)」に反映させた。

【参考文献】

国土技術政策総合研究所資料第229号、2005年1月他